



今二小では、
心身ともに健康でたくましく、心豊かで、生涯にわたって自ら学ぶ児童の育成
を目指して、次の三つを学校教育目標に掲げています。

- | | |
|--------|-------|
| ○やさしい子 | (徳目標) |
| ○かしこい子 | (知目標) |
| ○げんきな子 | (体目標) |

学校の教育目標は、「徳」「知」「体」の三つの面からつくられていますが、今二小では、上の三つを子供たちのあるべき姿として、学校の目標にしています。

今二小の教育目標は、昭和34年、今市第二小学校の創立にあたって、二宮尊徳の生き方を盛り込んでつくられました。それは、本校が、報徳仕法によって作られた大切な田んぼの上に「『命と等価の米』に優る教育の場」というみんなの願いを込めて建てられたからです。

一番目の「徳」目標は、創立当初「つくす子」でした。時代と共に「つくす」の表現が嫌われるようになりましたが、「やさしい」に込められた思いは、単に親切にしていることではなく、人と共に生きる、人のために尽くせることを意味しています。

三番目の「体」目標は、ずっと「じょうぶな子」でした。「丈夫」には「頑健さ」が込められています。頑健で世のため人のために働けることをいっているのです。また「丈夫」には「粘り強さ」も込められています。「粘り強さ」は、まさしく今二っ子そのものです。

「つくす子」と「じょうぶな子」は、今二小にとってとても大切な目標だったのではないかと思います。創立当初から長い間続いた目標でした。「やさしい子」と「げんきな子」に込められた「つくす」と「じょうぶ」の思いを、創立当時の熱き心に添って大切にしたいと思えます。

二番目の「知」目標は、「かしこい子」です。今、「知識の量」が学力に返り咲く機運がありますが、賢く考えることをやめてしまった知識ほど無意味なものはないのです。紙に書いた「豆」の文字はいかに達筆であっても本物の「豆」に優ることはなく、机上の学問であってはなりません。「かしこい」とは、身に付けた知識をいかに「生きた学力」にしていくかを意味しています。

学校はこれらの三つに向かって勉強するところです。互いに切磋琢磨してみんなで勉強するからこそ「学校」です。自分のために勉強し、人のために勉強する。それが今二小の目指すものです。

■今二小は二宮尊徳開墾の地にあります。

西門に二宮金次郎の銅像があります。銅でできた金次郎像は、旧今市市内の小学校でここ今二小だけです。また、南門東側に二宮尊徳開墾の碑があり、「日光神領随一の美田」と記されています。

今二小が建っているこの場所は、西暦1858年、二宮尊徳が立てた計画に基づいて、弟子とこの先人たちの苦勞の末に、田んぼとなったところです。それから何十年も大事に大事に耕されてきました。

■ではなぜ、苦勞して開墾した田んぼを壊して、今二小は建っているのでしょうか。

西暦1958年（昭和33年）、瀬尾小学校が廃校となり、今市小学校の一部と大桑小学校の一部が統合されることになりました。（最初は「今市小学校分校」。翌年「今市第二小学校」という名称になりました。）

その時、未来を背負う子供たちの教育の場に、最もふさわしいのはどこか、ということになりました。

“二宮尊徳開墾のこの何より大切な土地に人間教育の田んぼともいうべき校舎を建設したい”人々はそう考えました。

米を生む田んぼは命より大事と考えられていた時代です。それにもまして「人をつくるは米をつくるにまさる」の思いが地域の人みんなに広がっていきました。

校長室の、「周年記念誌」など過去の資料にそう書かれています。

■そして今二小は、報徳仕法による開墾が始まった年からちょうど100年目の年、創立となりました。

金次郎の銅像も、瀬尾小学校から引っ越して、PTAと市でお金を出し合って建て直しました。金次郎の銅像は、瀬尾小学校に西暦1936年（昭和11年）、地域の有志によって建立されたと、「瀬尾小学校沿革史」に記載されています。

■地域の人々は、尊徳翁からたくさんことを学びました。

「一生懸命誠実に生きる」という生き方を、田んぼの開墾を通して二宮尊徳から学んだのです。その心が、脈々とこの今二小に伝わっていることを、地域の人々の言動から感じることができます。

今永遠の眠りに就いている尊徳翁や、ここを開墾された方々は、どのような思いで今二小を御覧になっているのでしょうか。当時の人々の思いに恥じない今二小でありたいと考えます。

■二宮尊徳と昔の人々が、私たち今二小に残したものは、次のことです。

★自ら一生懸命生きようとする

★人のために一生懸命になろうとする

先人の思いを大切にしながら……

今の自分を一生懸命耕し……

夢をもって、未来を拓いていきたい……

そして、そういう所に建っている今二小に誇りをもたせたいと思います。

未来からの留学生である子供たちを、心を込めて教育することが私たちの使命であると考えています。

……先人に学び 今を耕し 夢をもって 未来を拓く……
「自ら生きる力」と「共に生きる心」の育成